

(2) ふき取り検査

2) 細菌検査

# ① ふき取り検査 ST-25+ペトリフィルム

## Pro・media ST-25



### 綿球を絞る

容器の外側から指で押し余剰の液を絞り落とす



### 拭き取る

検査箇所(約100cm<sup>2</sup>)を拭き取る



### 混釈する

拭き取った綿棒を容器に戻し、水平方向に振って検査に供する

### 定量検査の例(分注機能を用いて検体滴下)



### 開栓

指でリドを開ける



### 検体滴下

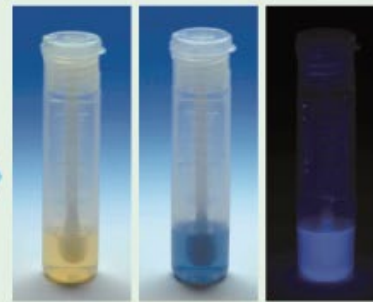
培地に直接滴下して培養する  
培養時間等は使用する培地の取扱説明に従ってください

### 定性検査の例(容器を用いて培養)



### 培地注入

リドを開けて、定性検査用培地“ST-SSP”を注入して培養する



陰性 大腸菌群陽性 E.coli陽性  
(36±1℃24時間培養後)

### 判定

24時間培養  
青色:大腸菌群陽性 蛍光:E.coli陽性

[http://www.elmex.co.jp/products/pdf/SWABTEST\\_201906.pdf](http://www.elmex.co.jp/products/pdf/SWABTEST_201906.pdf)

## 3M ペトリフィルム 生菌数測定用プレート (R A Cプレート)

### プレートへの接種

1. ペトリフィルムR A Cプレートを平らな水平面に置きます

(図a参照)。

2. 上部フィルムを持ち上げ、ピペットを垂直にして、下部フィルムの中央に1 ml の検体懸濁液を滴下します (図b参照)。

3. 気泡が入らないように上部フィルムをかぶせます (図c参照)。



3M ペトリフィルム

生菌数測定用プレート（RACプレート）

プレートへの接種

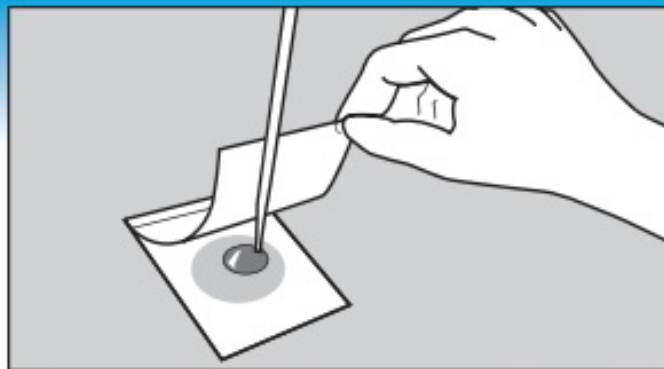
4. RACプレートの中央に、フラットスプレッダーを載せる。

スプレッダーの中心部を軽く押し、検体を均等に広げる。

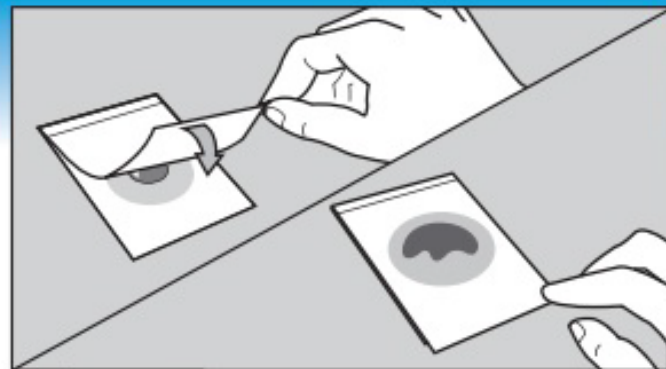
ゲル化されるまでに、ペトリフィルムプレートの培地部分内で広げる。  
フィルム上でスプレッダーをすべらせない。

5. スプレッダーをはずし、

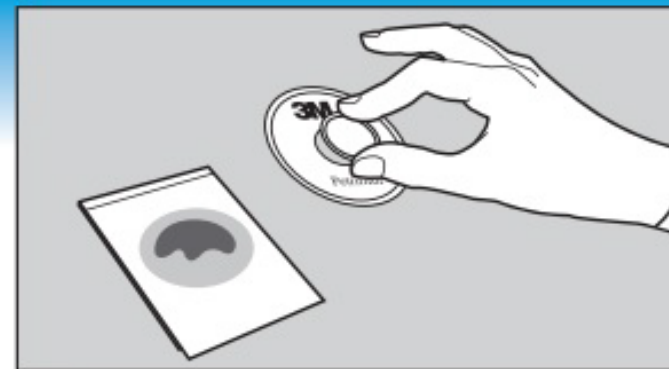
プレートをゲル化されるまでそのまま少なくとも1分間放置する。



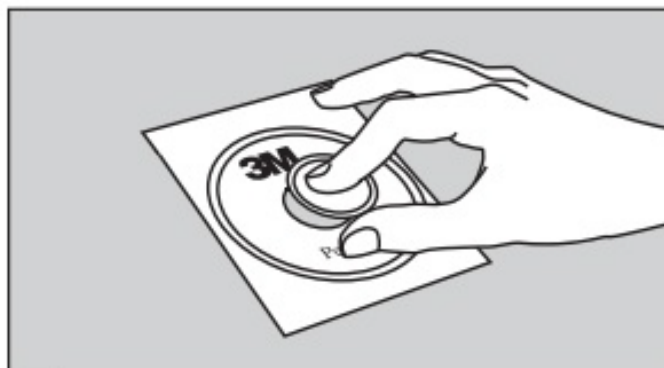
- 1** 3M™ ペトリフィルム™ 培地 生菌数迅速測定用プレートを手平らな表面に置きます。上部のフィルムを持ち上げ、ピペットを垂直に保ち、検体1mLを下部フィルムの中央部に接種します。



- 2** 上部フィルムを検体の上におろします。

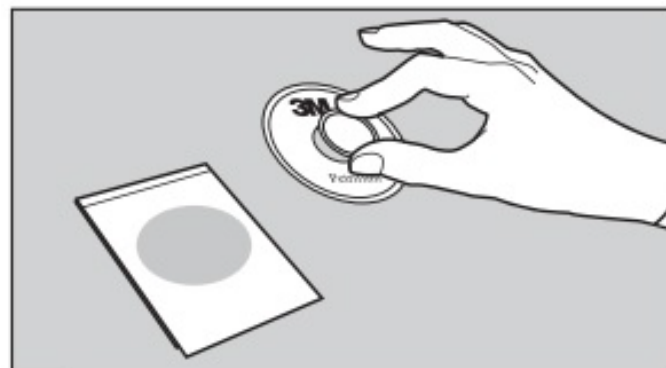


- 3** 3M™ ペトリフィルム™ フラットスプレッダー (6425) を3M™ ペトリフィルム™ 培地 生菌数迅速測定用プレートの中央に置きます。



- 4** スプレッダーをプレートの中央に置いた後、すぐにスプレッダーの中心部をしっかり押し、**検体を一度で素早くプレート上に広げます。**

**注意** スプレッダーをゆっくり押して検体を広げたり、広げる途中で止めたりすると、プレートに気泡が入ることがあります。検査結果には影響しません。



- 5** スプレッダーをはずし、プレートをゲルが固化するまで最低1分間放置します。

#### 適切な滅菌希釈液をご使用ください

バターフィールドリン酸緩衝希釈液 (ISO 5541-1)、緩衝ペプトン水 (ISO)、0.1%ペプトン水、ペプトン塩希釈液、生理食塩水 (0.85~0.90%)、重亜硫酸塩無添加リージンプロスまたは蒸留水。  
**クエン酸塩、重亜硫酸塩またはチオ硫酸塩を含む希釈液は、菌の生育を阻害するので使用しないでください。** クエン酸塩緩衝剤が標準検査手順中に指定されている場合は、代わりに40~45℃に加熱した0.1%ペプトン水を使用してください。

(2) ふき取り検査 2)細菌検査 ①ふき取り検査 ST-25+ペトリフィルム

3Mペトリフィルム

生菌数測定用プレート (R A Cプレート) 判定

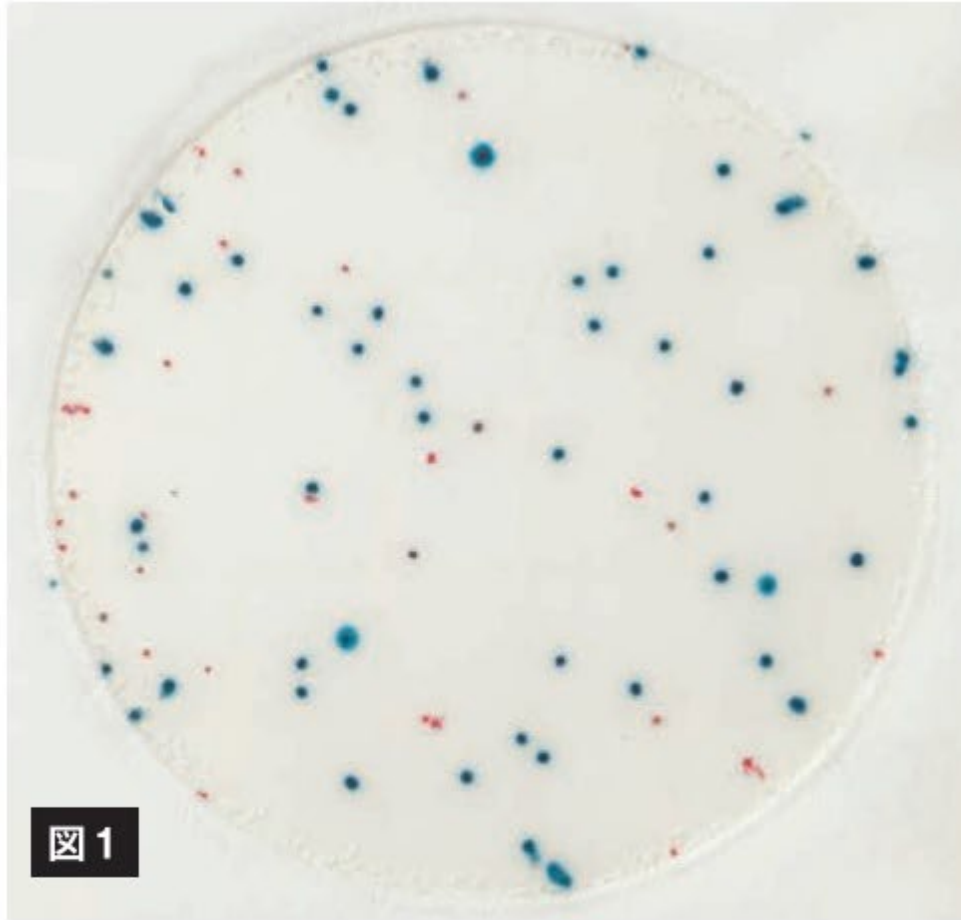


図1

生菌数=88コロニー

指示薬により青色あるいは赤色にコロニーを着色します。サイズや色の濃淡に関わらず、コロニーはすべて数えてください。

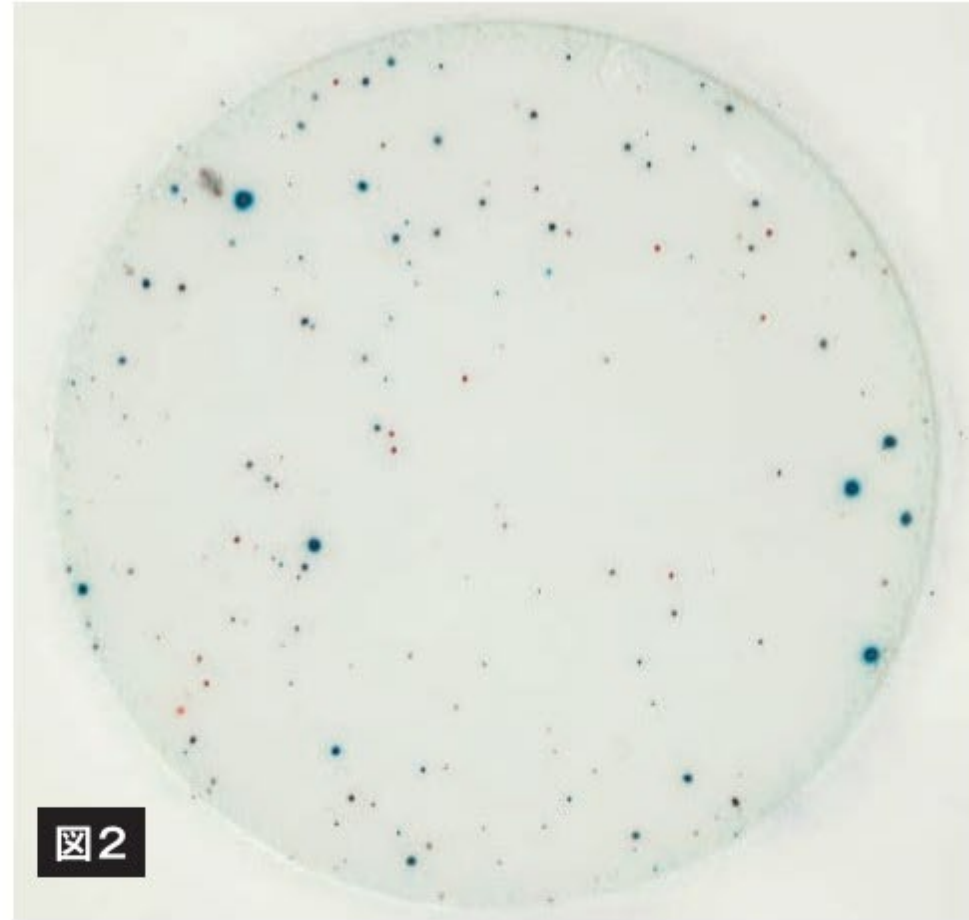


図2

生菌数=204コロニー